

定例記者会見

日時 令和5年2月10日（金）
午後2時から2時30分まで
場所 市役所3階 大会議室

発表項目

令和5年当初予算（案）の概要について

市長あいさつ及び発表項目

記者の皆様方には、日頃から越前市政の推進にご理解とご協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。今日の午前中に市議会に対して、提出予定議案等について説明しました。現在、3月策定予定で市総合計画2023を進めています。これをベースに予算を組んだことから、その内容についてご説明申し上げます。

まずは、令和5年度当初予算の概要です。令和5年度は、今ほど申し上げました総合計画2023のスタートする年であります。12のチャレンジプロジェクトを総合計画の中に盛り込んでいます。12のチャレンジプロジェクトに対応するような予算を中心に予算を編成しています。

1年後の令和6年春には、いよいよ北陸新幹線越前たけふ駅が開業し、ちょうどその年にNHKの大河ドラマ「光る君へ」の放送も開始されます。この2つは、越前市、丹南、福井県の認知度を上げる滅多にないチャンスと思っています。これをきっかけとして、本市の持っている長い歴史と伝統、これに育まれた魅力を我々自身や市民も再認識したうえで、外に発信していく「文化県都宣言プロジェクト」、「観光産業拡大プロジェクト」など、地域ブランディングの向上や誘客促進に関する事業に、重点的な予算配分を行いました。

子育て世帯への支援として、令和5年4月受診分から小学生から高校生までの子ども医療費の完全無料化を導入します。また、不妊治療費助成、児童発達支援事業の拡充などに必要額を計上しました。

一般会計については、市税の減収が見込まれますが、物価高騰の影響も

あり前年度比0.2%増の予算規模であります。中長期的な財政基盤の安定化を図るため、減債基金や社会基盤整備基金を活用しつつ、国県の補助金や交付税措置のある有利な市債等の財源確保に取り組み、将来負担の増加にならないよう計画的な予算編成に心掛けました。

なお、新型コロナウイルス感染症や物価高騰対策については、今後の感染状況、経済動向、国や県の対応等を注視しながら、精査して補正予算で対応したいと考えています。

資料1の2ページですが、当初予算のポイントを纏めました。新幹線県内開業や大河ドラマ関係のこと、子育てや人生100年時代のことを掲げています。内容については、資料4ページ以降で説明しています。

資料4ページについて、チャレンジプロジェクト①文化県都宣言プロジェクトの中の紫式部プロジェクトであります。

紫式部関連で、総額242,000千円の予算を組んでいます。

(1) 大河ドラマ館について、何処の大河ドラマのゆかりの地でも設置されるケースが多く、市でも大河ドラマ館を設置する予算を計上しました。武生中央公園の屋内催事場「まさかりどんの館」を活用しようと考えています。

特設の大河ドラマ館を造ると壊さないといけないのもったいないこと、また、武生中央公園ということで、人がたくさん来られることや駐車場が多くあることから、ここを活用していきます。

何処の大河ドラマ館も衣装とか映像とか出演者のコメント等の展示や地場の商品の販売を行っています。

ここだけでなく、ゆかりの地である紫式部公園や紫ゆかりの館、そしてまちなかでもあります。直接紫式部とは関係がなくても国府時代の伝統のあるまちなかへの進入も一つの起点として進めていきたいと考えています。

(2) 官民連携によるオリジナルのV-Tuber（バーチャルユーチューバー）の開発・活用事業について、キャラクターが動いて歌を歌うようなV-Tuber、この前のNHKの紅白でも登場したのでイメージは分かると思っています。来週14日に滋慶学園と連携して作る紫式部ほかのキャラクターを5体発表します。3D化して、オリジナルのユーチューバーとして様々な活動をやってもらい、それをプロモーションとして活用していきたいと考えています。

(3) プロモーション・機運醸成について、NHKのプロモーションも今年の11月ぐらいから始まる予定で、そこと連動したいと思っています。また、新幹線のキャンペーンがJRと旅行会社で始まり、観光プロモーションと一緒に福井全体、北陸全体としてやっていきますが、そこと連動する形で越前市におけるコンテンツとしてこれを出していきたいと考えています。

新幹線と大河ドラマというWビックチャンスを生かしていきます。

これに関連して5ページについて、越前国府の発掘であります。越の国の国府が、大化の改新のすぐ後ぐらいの千三百数十年ほど前に北陸で最初におかれしました。しかし、実際にもものとして残っていません。歴史的には、文書とかはありますが、具体的なものはありません。何とかそれに関連するものを発掘し、発掘プロジェクトとして、国府があったから紫式部が千年前に来たわけですので、それと関連付けて発掘し、明らかにした越前国府を見てみたいと思っています。また、公会堂での事業とか、平成8年には実際に歩いた道を市の職員等が歩いた。そういったことなどをやりながら、取組みを進めていきたいと考えています。

なお、紫式部プロジェクトについては、別に資料2を配布しています。

次に、10ページについて、新幹線関連であります。新幹線開業が1年遅れたこともありまして、道の駅が県道の整備と併せて1年前の今年度の3月18日にオープンします。新幹線が来るまでの1年間に、一つの拠点として盛り上げていきたいと思っています。また、新幹線駅前の道の駅周辺、まちなかも含め様々な情報発信、イベントを継続的に行いながらやっていきたいと考えています。

新幹線の駅前であります。高速道路のインターが近く国道8号も側を通っています。年内には国道417号の冠山峠トンネルもできます。車による移動が集客のポイントであります。新幹線がまだ走らなくても、あそこで色々な集客をやりながら、新幹線開業に向けた盛り上げを市民と一体となってやっていきたいと考えています。

次に11ページの下について、効果的にPRするため、開業ロゴマーク、オリジナルノベルティグッズなどを、また、丹南地域の伝統的工芸品を詰め合わせたプレミアムボックスをふるさと納税の返礼品として作ってきたいと考えています。

次に16ページについて、従来は、就学前児童が窓口での自己負担がなしで、小学校1年生から高校3年生までが窓口で自己負担がありました。この部分を市が負担し、無料化を進める予定で1年間準備をし、4月受診分から実行します。

不妊治療についても従来は、県の助成が1回当たり最大6万円の自己負担があります。金額は、治療費の額によって変動しますが、今回、最大6万円の自己負担をなしにします。現在、8万人の人口が、2040年には6万人という予測もありますので、何とか維持するためにあらゆる手段でやっていきたいと思っています。17ページ上の保育士の確保もそういうことであります。子育ての応援で色々な経済的な支援をしていますが、実際の受け皿の部分において箱があっても人がいないという課題があります。保育士の処遇改善はしていますが、職場環境が厳しい面もあります。保育士の確保は引き続き力を入れてやっていきたいと考えています。

次に、資料3の補正予算について、公共交通対策事業やふるさと納税寄附金が増収の見込みでありまして、返礼品の購入や手数料等の歳出予算として発生する分を補正予算に計上しました。あわせて、不用額等の減額予算や来年度以降の施策に備えるため、新設する「こどもまるごと応援基金」、「企業誘致基金」への積立てを開始し、財政調整基金などへの積立金も計上しました。その結果、一般会計の補正額は11億5,530万1千円です。

私の方からの説明は以上であります。

記者の皆様には、今後とも取材等にご協力をいただきますようお願い申し上げます。

資料2について山口ブランド戦略室長が説明

質疑要旨

【質問】 市長からWチャンスという発言がありましたが、今回の予算を一言で表現したり、キャッチフレーズを付けたりすると何ですか。

【回答】 新幹線と紫式部のワクワク予算。みんなでワクワク盛り上げていきたい気持であります。

【質問】 財政調整基金を取り崩すということは、減多にないチャンスということで積極的投資をしていかれる趣旨でよいでしょうか。

【回答】 今世紀中は二度とないチャンスであります。特にソフトが中心だが投入していきます。税収は厳しめに見る必要があります。紫式部関連の中では、いかに稼ぐことができるのかということも十分に考えながら、最終的な予算の歳出を抑えていきたいと思っています。再来年度にはできないので、このタイミングで思い切ってやっていきたいと思っています。

【質問】 新しい総合計画に基づく最初の予算と思いますが、スタートする初年度として十分な予算でしょうか。

【回答】 作っている途中から準備をしてきた経緯があります。主要なプロジェクトについては、予算化できたものと思っています。ゼロ予算事業としてプロジェクトを進めるための取組み、人件費やインフラは使用しますが特別な事業予算を持たずに一歩でも前に進めることを含めるとほとんど盛り込めたと思っています。しっかり準備して、足元を固めてからやるべきものも残っているので、全てが完全に網羅し尽くした訳ではありません。スタートとしては、予算として相当のものが盛り込めたのではないかと思います。

【質問】 紫式部プロジェクトで市長から一過性ではなくとあったと思いますが、紫式部も含めこの先どのような市の姿を描いていくのでしょうか。

【回答】 認知度について東京近辺で調べると1割くらいであります。旧今立と旧武生が合併して新しい市の名前になったこともあると思いますが、まだ十分に知られていない状況であります。これから人口が減っていく中で、越前市を知っているとか何があるか知ってもらうことが、定住、住み続ける上でも一回出て帰って来てもらう上でも、あるいは新たに住み始めてもらう上でも、もちろん観光に来てもらう上でも、知ってもらうことが大前提であります。今回の新幹線のプロモーションと併せて、紫式部プロジェクトによって越前市の認知度を高めることが、次の展開に繋がっていくと考えています。紫式部ということで来ていただくが、実際

は、歴史と文化、伝統工芸、あるいは食べるものや自然に触れていただきます。来ていただいて、またリピートしていただくとか、口コミで広まっていきます。このような形で、その先に地域の元気と活力に繋がり、それが市民の幸せに繋がると思っています。循環をさせる最初のエンジンが回るタイミングが今年、来年と思っています。

【質問】 子育ての予算が手厚いと思いますが、改めて市長の子育てへの思いは。

【回答】 ずいぶん長い間、少子化対策というのは県においてもやり続けました。政府の方も異次元の少子化対策と言っています。いよいよ少子化が社会全体に大きなダメージを与えているとしています。越前市においても8万人が6万人になる予測です。定住人口について、産んで増やすこともありますが、子育てのしやすい地域ということが、帰ってきてもらう、住み続けてもらう上で大事であります。そういった局面であり、市としてやれることは、あらゆる手を使ってやるべきと考えています。保育や教育の環境は、かなり良くできていると思っています。今回は、経済的負担を減らすことで、越前市において産んで育ていただく環境を更に高めていきたいと考えています。あわせて、国全体の政策においても、こういった方向を取ってほしいという、先取りの意味も込めて入れています。

以上